

1 教育目標

(1) 本校の教育目標

「思いやりのある子ども」の育成

たくましく生きる子ども(自らの目標に向かって、あきらめないでやりぬく子)

いのちを大切にする子	交通ルールや出かけるときの約束を守る子 なかよく安全に登下校する子 こころやからだをきたえる子
------------	---

みんな仲よく助け合う子ども(人との関わりを大切に、相手の気持ちを考える子)

あいさつ、そうじのできる子	あいさつやそうじをきちんとする子 人のいやがることをしない子 ものを大切にする子
---------------	--

進んでがんばる子ども(自ら問題意識を持って、解決していこうとする子)

きちんと勉強する子	先生の話をきちんと聞く子 本をよく読む子 家で、30分以上勉強する子
-----------	--

(2) 経営方針

ア 危険回避能力を高めるとともに、体を鍛え、健康の保持増進のための実践力のある児童の育成に努める。

イ 道徳教育を充実させ、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心、環境問題に関心を持つ児童の育成に努める。

ウ 学ぶ意欲の向上と習得・活用・探究を大切に学習活動の充実を努める。そして、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけさせ、思考力・判断力・表現力を育成し、よりよく問題を解決する資質や能力を持った児童を育成する。

エ 家庭や地域との連携をより一層深め、保護者や地域の信託に応える教育を推進する。

オ 教育者としての使命と責任を自覚し、常に自己研鑽をし、社会の変化に対応できる指導力と資質の向上に努める。

(3) 本年度の重点努力目標

ア 健康・安全の態度や習慣の育成

(ア) 着衣水泳や薬物乱用防止教室を実施し、自分の健康と安全に関心を持ち、命を大切にする心を育てる。

(イ) 交通安全教室や通学団会、安全マップの作成、セルフディフェンスなどを通して、安全に対する意識や危険回避能力を高める。

(ウ) 体育の授業では、確実な技能の習得を目指し、授業の効率化を進める。

(エ) 外遊びを推奨し、縄跳び・鉄棒・持久走においては「めあてカード」を利用し、技能の向上や体力づくりに意欲的に取り組ませる。

(オ) 施設・設備や遊具等の利用指導を確実に行う。

(カ) 学年に応じた「トイレの利用指導」を行い、気持ちのよい学校生活が送れるようにする。

イ 豊かな心の育成

(ア) 教育活動全体を通して道徳教育を展開し、生命を尊重し、社会のルールやマナーを身につけ、善悪の判断が主体的にできるようにする。

(イ) 「あいさつ」「掃除」「家庭学習」「早寝」「早起き」「朝ごはん」などの基本的な生活習慣を家庭と協力して身につけさせる。

(ウ) きれいな学校を目指して、掃除の意義や方法を理解させ、掃除を通して協調性、責任感、達成感を味わわせる。

(エ) 学校や学級が、児童にとって安心や喜びのある場となるように努めるとともに、縦割り班活動を通して、社会性を身につけさせる。

(オ) 飼育・栽培活動を通して、生命を尊重する心や感動する心を育てる。

(カ) 「緑のカーテン」などを実施し、地球温暖化防止などの環境意識を高め、地球にやさしい学校づくりを進める。

(キ) 福祉実践教室などの体験的な活動を通して、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア・社会連帯の精神を養う。

(ク) 人権について、人権尊重の精神を生活の中で具体的に生かす態度を育てる。

(ケ) 相談活動の充実を図るとともに、いじめ、不登校、虐待などについては、家庭や地域及び関係機関との連携を深め、早期発見・早期対応ができるようにする。

ウ 確かな学力の育成

- (ア) 言語活動と理数教育の充実に向けて取り組む。
- (イ) 基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせ、学ぶ意欲の向上と思考力・判断力・表現力の育成に努める。
- (ウ) 全校読書「あさよむ」やボランティアによる読み聞かせ「おはよむ」などの読書活動の充実と、各教科の図書利用指導の充実に努める。
- (エ) 総合的な学習では、探究的な学習に取り組みせ、自ら学ぶ意欲と実践力を育てる。
- (オ) 3年生から6年生まで「英語活動」を実施し、英語によるコミュニケーション能力を育成する。
- (カ) 算数における指導方法や指導体制の工夫改善をすることで、一人一人の児童に応じたきめ細かな指導をし、学ぶことの楽しさや充実感を味わわせる。
- (キ) 情報を収集・処理・発信するなどの情報活用能力を育成するとともに、情報モラルの必要性や責任について考えさせる。
- (ク) 障害の種類や程度に応じ、一人一人の能力や可能性を伸ばし、社会的な自立を実現するための指導と体制の充実に努める。

エ 信頼される学校づくりをめざして

- (ア) 教師一人一人が地域の人づくりに携わっているという責務を自覚し、家庭や地域との相互交流を深める。そのために、地域文化を理解し、地域素材の教材化、地域人材の活用を積極的に進める。
- (イ) 「庭に花咲く大徳小」「本が大好き大徳小」「歌声ひびく大徳小」をキャッチフレーズに、各学年だよりや学校だよりの発行、ホームページにより、保護者や地域に積極的に情報発信する。
- (ウ) 学校評価を実施し、保護者や地域の意見を教育活動に生かす。
- (エ) 不審者による被害防止のための体制づくりとして、避難訓練の実施、「見守り隊連絡協議会」を開催するなどして児童の安全確保を図る。
- (オ) 幼稚園、保育園との連携、他の小学校との連携、中学校との連携をすすめ、長期的な視野で児童を育成する。
- (カ) 安全な学校づくりに向けて、施設・設備の安全管理体制の確立を図る。
- (キ) 学級担任と学級担任以外のより多くの教師が児童に関わって指導ができるようにする。

オ 信頼される教師をめざして

- (ア) P D C A の評価システムを利用し、自己評価を行い、常に研修に努める。
- (イ) 教職員としての資質の向上と専門性の確立に努める。
指導と評価の一体化を図り、学ぶ意欲の向上を目指した指導方法の改善と評価の工夫をさらに進める。
ICT 機器の使い方や指導法の研修を行い、教育効果をあげる機器の活用を図る。
- (ウ) 校内現職教育では、児童の読書活動を充実させるための研究を行う。
- (エ) 授業研究は国語・算数を中心に行う。